

第2回わかやまリノベーションまちづくり構想検討委員会 議事概要

日 時 平成28年9月1日(木) 午後6時～午後9時

会 場 加太おさかな倉庫

出席者 嶋田委員長、有井委員、樫畑委員、源じろう委員、武内委員、豊田委員、吉川委員、依岡委員、利光委員

主な議事

- 1 開会
- 2 前回の主な発言と和歌山市産業の現状について、資料に基づき説明
(商工振興課 國生)
- 3 今回の趣旨説明について、説明
(嶋田委員長)
- 4 講演「ハーブプラスカフェができるまで」
(河野 芳寛氏)
- 5 各委員の取組紹介
(利光委員、有井委員)
- 6 テーマレクチャー「大磯での暮らしのつくり方」
(原 大祐氏)
- 7 フリーディスカッション

西上さん 前回、学生はまちなかに行きたがっているが交通手段がないと発言し、実際にやるしかないと思い、企画を考えてきた。

中井さん 和歌山市市街地の活性化を図るため、和歌山大学生を中心としたナイトタクシープロジェクトを提案する。和歌山大学生は、新しい飲食店を訪れたがっているが、現実には大学周辺の飲食店へ行っている。そのギャップの原因は、交通手段がないためだと思う。そのため的手段として、わかやまナイトバス、ナイトタクシーを企画した。一つ目の目標は、和歌山大学生に和歌山市街地の飲食店に来てもらうこと。二つ目の目標は、大学生に市街地の飲食店の良さを知ってもらうこと。そのために、大学生が行きたい和歌山市街地飲食店マップの作成なども行いたい。市街地に飲みに行くとき、バスだと帰りの便がなく、電車だと駅から遠いため、タクシーをよく使

う。一人当たり 500 円から 1,000 円で、今後毎月一回、金曜日もしくは土曜日にある程度の人数を運んでいただきたい。和歌山でアルバイトをし、大阪の飲み屋でお金を使うと、和歌山のお金が大阪に流れていくが、この企画が実現すれば、飲みに行くお金が大阪から和歌山に流れるという効果が和歌山市街地にでてくる。

ゲストハウス RICO でお手伝いをしているが、こういう経験を経る人や市街地に戻ってくる大学生もこれからでてくると思う。まちづくりでつくられたところに行って楽しい経験をしたり、いろいろな人と関わったりすることもまちづくり。今回バスで和歌山市街地に大学生が行けば、和歌山大学生もまちづくりに参加できると思う。皆の力で和歌山大学生をまちづくりに参加させていただきたい。

嶋田委員長 素晴らしい提案。もし毎日このバスが走れば、飲食店終わりに家に帰れるようになるため、まちなかで学生がアルバイトを始めるのではないかと。

豊田委員 前回の提案を受けて、運輸局等に問合せした。観光バスの新規参入が非常に厳しくなり、最低運賃が決められている。計算したところ三分の一くらい赤字になる。更に工夫して、できた。今日提案していただき、非常に驚いた。今回の件にかかわらず、国、県、市の規制ががんじがらめになっているが、地域の行政の後押しがあれば結構何でもできる。私が相談に行くときに行政の方も一緒に協力していただき、やろうと思う。

嶋田委員長 このプロジェクトの実現に向けて一歩動き出したので、ちゃんと事業にしてほしい。自分がやりたいことをどんどん発言していただき、プロジェクトを生み出してほしい。

原さん 今日、友ヶ島に行った帰りに昼飯を食べようとぶらぶらしたが、なかなかお店が開いていなかった。大磯より良いと思った点は、大磯町の空き家物件は小さいが加太はちょっと大き目の物件がいっぱいあり、使える物件も大磯よりもいっぱいあると感じた。家賃もだいぶ安い。使える遊休資産が結構ありそうで、ランニングコストも安いというのは、非常に可能性がある。景色も良い。友ヶ島行きの船に乗っているのは皆若い人。淡島神社の横で食事して帰ると思うが、もうちょっと面で楽しめる場所があれば、インバウンドも含めて多くの人に来る可能性が非常に高い。

利光委員 友ヶ島に行く方が倍増しており、年間で5万6千人くらい。一方

で、食事する場所が不足している。土曜、日曜であれば、最近店が少しオープンしてきたが、船の輸送量が1日300人~400人であり、商売としては難しい。また、淡島神社は古くからの人気スポットで。南海電車もめでたい電車等で支援をしていただき、人口は増えてきたが、そういった連携が足りてないと感じている。

源じろう委員 津屋という店を和歌浦でやっているが、加太の旅館を壊すときにテーブルと椅子をいただいた。加太が好きで、ずっと昔から見ている。おもしろい物件はないか、加太少年自然の家がもう閉まっていないかなと思い、2回くらい見に行ったこともある。加太は本当に魅力のあるまちで、チャンスがあれば何かチャレンジしたい。原さんの話を聞き、最終は面になっていかないといけないと思った。映画祭も開催されていて、他にもいろいろ出てきて面になっていけばよい。

河野さん 初めて加太に来たが、思っていた以上におもしろい物件がたくさんあり、とても可能性がある場所だと思った。

嶋田委員長 具体的にイメージできたものはあったか。

河野さん 川沿いの繊維工場は、飲食だととても良い感じになると思う。

嶋田委員長 そこで加太のおいしい鯛を使ったカルパッチョや、おいしい白ワインを出すといい。

源じろう委員 そのなかまどが本当に良い。サーフィンのポイントがあったり、ちょっとした別荘地があったりする。

堤さん 皆さんに良い建物だと言っただき、本当に嬉しい。再生したいという希望があり、今日もたくさんヒントをいただいた。私の建物はカフェやクラフトショップというイメージだった。山に入ったところに畑があり、皆がする農園ができればよいとイメージをもった。加太は漁業の町だが、昔は畑や田で作っていたので、皆が勝手にするようなものができたらと、とても良いヒントになった。

嶋田委員長 川の上を一部デッキにし、その上でワインを飲んだら最高だと思う。

堤さん 今下水道が全部川に流れてあまりきれいではないが、下水道工事が加太でも始まり、改善されればよい。

嶋田委員長 あの建物が上手く使われると、通りが一変する。上手く農地と建物

と港をつないで、加太をいくつか歩いて回るよう、面で展開できるとよい。

- 原さん 大磯農園の活動の中で、農園の活動がとても楽しく、一番好き。
- 嶋田委員長 あの建物で、カフェをしてくれる人、農地を上手くマネジメントしてくれる人たちと一緒にすると、とても良い形で使えるのではないかな。
- 原さん 大磯農園には会員が 150 人くらいおり、皆酒好き。彼らが農作業した後には集まれる場所が必要。皆で交流したり飲んだり泊まったりする。
- 嶋田委員長 そこは田んぼにできるのか。
- 堤さん 見たことはないが、祖父母の頃は田んぼだった。
- 嶋田委員長 酒米をつくり、そこで日本酒を作り、基本は加太で消費するが、一部は外へ。
- 武内委員 和歌山市駅前日本酒バーを営業しているので、売らせていただきたい。
- 武田さん 衣奈マリーナという格好いいおしゃれなボートカフェがある。土日は県外客でいっぱいになっているお店があり、その方の話を聞きたい。
- 舟井さん 原さんの大磯の話はとても興味深く、点を面にするのがとても上手いと思う。ボートカフェを由良町の衣奈でやっているが、大磯と規模は異なるが、根っこの部分は同じような状況。海水浴場や旅館があったが、今は旅館が数軒、商売をする人がいない海水浴場があり、静かに死んでいる感じ。そこに単身で出店して3年目くらいになり、少しずつ知られていき落ち着いてきた。自分の目に見える範囲は楽しいところにしたいたいと思い、近所の旅館の空いているスペースを借りて、海水浴場に海の家を、海に遊覧船を、というイメージを描いて動いているところ。原さんは何をしているのかといわれると思うが、そういう人の収入源を知りたい。
- 原さん 何をしているのか、収入はどうしているのか、必ず聞かれる。大磯町は非常に市場が小さく、一つの事業で年収、月収をある程度固めるのは結構大変であり、本気でやらないとだめ。少しずつをいっぱい持っている。あまり働きたくない。子どもとダラダラしていた

い、別荘的生活をしたいので、事業はほとんどサブリースにしている。遊休化した港を県から借りて貸す、畑を借りて貸す、物件を借りて貸す。セレクトショップは管理料を取っている。そういうのがたくさんある。あまり請負事業は受けないが、団地の再生や住宅供給公社の顧問の副収入もある

吉川委員 原さんの話はとても面白かった。部活にして、皆ですするというのはとても良いアイデアだと思う。加太で淡島神社につなげられるような定期的な市が月に一回あると変わると思う。定期的な市は単発のイベントとは意味が異なると思っており、そういうのとつなげるとよい。

嶋田委員長 加太は車が入れない路地がとても多い点が特殊。車が入ってこない路地の家の空き家の軒先でマーケットを開催してはどうか。ここも拠点にし、月に一回まちなかに点在する露店を巡るマーケットを開催し、空いているところで食事もできると、南海電車に乗って和歌山のまちなかから人がとても来るのではないかと。南海がプロモーションしてはどうか。

井手さん 南海電鉄に勤務している。個人的に加太を気にしており、映画祭を主催している小川さんに話を聞き、何かやればいいと思っている。加太のまちの方と連携しているが、もうちょっと面を広げるためにできることはないか考えており、非常に良いアイデア。会長に相談はしてみたい。

嶋田委員長 実は商店街の会長をしているが、50 店舗中 3 人くらいしか会議に出てこない組合。商店街の物件を買って商店街に入っていく行き方はとても大事。加太のまちなかに住んで、何かやっていく人へのメッセージ、コツは。

有井委員 社会を変えるのは当事者性だと思う。どう自分事に捉えられるか。それがないと、結局遊び。加太の場合、よそからみんなが車で訪れるまちを作りたいのか、加太の暮らし、加太の日常、ライフスタイルとして本当に楽しむ住民を増やしたいのか、どの方向なのかが大事になってくる。ライフスタイルという話でいくと、隣の磯の浦はライフスタイルで住む場所として選ばれる可能性のある場所。サーフィンや波を日常に取り込む人が懂れている。本当に自由なまちだった。外国の文化など様々なものを取り入れる人がいっぱいおり、とてもおもしろいまち。今でもそういう人がたくさん集まっている

と思う。そこの海を自分の生活に取り入れたい人たちが集まる、またはそういった人を呼び寄せられる仕掛けがあれば、加太や磯の浦は、もっとおもしろくなると思う。

嶋田委員長 まちなかから加太に来ると、自由になったという開放感がある。それを押し出していくと、ここに暮らしたい人たちが現れてくる気がする。

長谷さん 非常に貴重な話を聞き、楽しい。白浜出身だが、シャッター商店街になっているところがあり、そこに様々なお店が入ればよいと一住民の感覚で思う。なぜ進まないのか聞いたときに、住居兼店舗のため、どこの誰かわからない人が来るのは怖くなかなか進まないという話を聞いたことがある。原さんや有井さんが関った事案で、住居兼店舗で話が進んだとか、進まなかったという話を伺いたい。

有井委員 住居兼店舗の場合は、階段が内側についているのか外側についているのかによって、貸せるか貸せないかが決まる。外側から別階段で2階、3階に上がれると、1階部分を貸してよいという話になる。それをクリアしたとしても、上に住んでいる人は下を人に貸すほどお金に困ってないため、積極的に貸す理由がない。これも実は当事者性という話で、持っている財産をぜひその人に応援するために使いたいと思えば、結構貸してくれる。例えば、上にいるおじいちゃん、おばあちゃんが福祉や介護の部分で少し課題を抱えてくると、下に障害者福祉の人が入ってくる方が安心するという話がある。上にいる人がどういうことに関して心の琴線を持っているか知っておくと、うまいコーディネートができると思う。

原さん 大磯でも難しい問題。貸してくれないというのが現状。そこが通路や倉庫になっているのも多い。困っていないというのも現状。本当に人間関係が本質。行政が間に入ると信頼感が増し、貸してもよいと前に進む。行政、まちづくり会社、まちのキーマンが動き、信頼を担保しないと、貸し借りにならない。

嶋田委員長 古い漁村のまちは加太の固有の空間資源。どこからが道路でどこからが敷地かもわからない家屋が軒を連ねて建っている。建築基準法上、建て替えたときのデメリットについてはどうか。

利光委員 築50年、60年と経っており、地震が起きたら危ないので建て替えたいが、建ぺい率の問題で半分になってしまうため、建て替えることができず、加太から離れて新しい家を建てる。加太の漁師は加太の

中に住んでおらず、離れたところに住んでいるのが現状。漁師町の雰囲気を残して人が住むためには、建ぺい率の問題等もクリアしないといけないと思う。

嶋田委員長 廃屋になっているものもたくさんあるが、上手く使えるものもある。ひいな湯に泊まる人とは異なるターゲットの人たちが、まちに住んでいるように1泊、2泊するのはおもしろいと思う。南イタリアでローマ時代から続くような古い城塞都市国家、元古い都市国家が要塞都市として残っているが、人口減少が非常に進み、空き家だらけになっている。その地域にあるベストなものをレセプションして、その周辺の空き家を全部宿として使う。加太のまちはそういうのが合っているのではないか。その際、建築基準法や消防法の問題が出てくる。和歌山市は規制の問題を考えた方がよい。用途変更する際、建築基準法を守りつつ、上手く活用できる仕組みはないのか。これを突破できれば、加太はものすごいポテンシャルを発揮できる。

森さん 建築基準法がまちづくりをストップしていることは、かなりあると思うが、安全は大事なので法を守っていかないといけないというのものもある。これから住民の方や周りの方と一緒に、規制緩和していくかどうか考えていかなければならない。

嶋田委員長 安全性をきちんと担保しつつ、ある部分は建築基準法や消防法よりも厳しい規制を設けることで安全を確保する。今のまちに即した上手い解釈の仕方ができると、とてもポテンシャルを発揮できるのではないか。

依岡委員 原さんや河野さんの話は、非常に勉強になる。今日加太を1時間半くらい歩いたが、何件か物件になりそうなところがあり、協力したい。

檜畑委員 加太のエリアは独特の魅力がある。友ヶ島、砲台跡、裏の路地を入ったところのヨモギ餅店は、加太のアイデンティティで、ちょっと独特。道も広くなり、車で来やすくなり、これから可能性のあるまちだと思う。一部の店が非常に流行っており入るのに時間がかかる。小さなお店でもよいので、10軒、20軒あると楽しめる。原さんの話を伺い、皆の熱意があれば発展する可能性があるかと夢を持った。皆と一緒に、希望を託して盛り上げていければと感じた。

山本さん 加太は、魅力ある資源の宝庫。友ヶ島は無人島だが、大変魅力があり、映画の撮影現場にも利用されている。タイだけでなく、タコ、サザエ、アワビなど、様々な魚介類がある。近々少年自然の家も改装され、まだまだ限らない魅力を携えたまち。和歌山電鉄と和歌山駅、市駅、加太を結ぶ電車を一本化できないかと言いつつ続けているが実現に至っていない。

嶋田委員長 和歌山駅から市駅まで乗り換えずに来られればよいとずっと思っている。

山本さん 和歌山県民はできない理由を並べる。どうしてできる理由を前向きに議論しないのか。

嶋田委員長 利用者の利便性を考え、検討すべき事項として構想に書いてはどうか。

尾家さん 大磯は加太と同じような環境だと思うが、人が非常に集まったというのはうらやましい。今、利光委員をはじめ、若い人が一生懸命まちづくりを頑張っている。やはり加太は魚のまちだが、鳴門と明石に名前が負けている。名前は負けているが味は勝っている。タイ、タコ、魚、環境、リノベーションの宝庫なので、皆のアドバイスをもらいながら、立派な加太にしたい。高齢者が多いというのも大きなハンディキャップ。また、資金がない。気持ちだけは負けないよう、魚で加太のまちづくりをやっていききたい。結構立派な空き家があるので、皆のアドバイスをいただきながら頑張っていきたい。本当に貴重な話を聞き、夢をふくらませることができた。

嶋田委員長 加太の一番美味しいタイとタコは、加太に来なければ食べられないようにすると、加太のタイ、加太のタコが全国的なブランドになっていくのではないか。それを、まちなかで美味しく食べられる場所ができれば最高。まちなかの魅力やまちなかにないもの、加太にあるもの、加太にないものをつないで、お互い補い合って和歌山のまちで楽しく暮らすことを引き続き考えていきたい。

8 本日のまとめと次回の案内

(嶋田委員長、商工振興課 清水副課長)

9 閉会

(当日の様子)

